

北斗通信

(令和7年5月号)

1. 埼玉県 令和7年度公立高校入試結果について	1
資料① 埼玉県公立高校 令和7年度入試概要	7
2. 埼玉県 近隣都県の入試日程	3
資料② 埼玉県・近隣都県の入試日程	9
3. 文部科学大臣 中教審へ諮問	4
資料③ 初等中等教育の教育課程の基準等の在り方	11
4. 埼玉・東京地区の主な進学フェア日程	4
5. その他の話題	5
・ 公立の併願制度検討へ	5
・ 川口市立中学募集を全県に拡大	6

会員限定情報「北斗通信」
令和7年5月12日
岩佐教育研究所
<http://www.iwasaken.jp/>
TEL048-688-4698
FAX048-675-0219
E-mail shohokuto@gol.com
無断転載を禁じます。

1. 埼玉県公立高校 令和7年度入試結果 資料① 埼玉県公立高校 令和7年度入試概要

埼玉県教育局は、4月下旬までに令和7年度公立高校入試選抜状況をまとめ発表した。

今春の入試では、全日制の総募集人員35,001人に対し、33,224人の一般合格者(伊奈学園・市立浦和・川口市立からの内進生を除く、追検査の受験者と合格者を含む)と欠員補充の320人の合格者を出し、最終倍率は1.16倍(普通科1.18倍、専門学科1.08倍、総合学科1.04倍)などとなっていた。

(公立入試の考察)

12月15日現在の進路希望調査では、進学希望者の公立全日制へ進路希望者の割合は、令和元年度67.3%、2年度65.4%、3年度65.1%、4年度63.9%、5年度63.8%、6年度63.2%と減少傾向で推移している。

令和6年度入試の公立全日制的倍率は、出願1.11倍、確定1.10倍、受検1.10倍、実質は1.16倍となっていた。

一方、24年度の入試1本化になって以来、私立入試がすべて終了してから公立入試が始まっていたが、コロナ禍に伴い、インターネット出願が採用されたこともあって、出願日程が早まり、7年度では、1月27日～2月10日と、都

内私立一般入試の受験日2月10日と重なっていた。このため、出願後の取り消し、欠席が増加していたようだ。

また、入試1本化以降、不合格者は増加しており、23年度の後期が4,262人だったことに対して、令和2年度では、5,127人、3年度は4,498人、4年度は、4,758人、5年度では5,008人、6年度では、5,069人、7年度では、初めて追検査の不合格者を含めて5,225人となっていた。

国や県の授業料補助制度の増額と、大学入試改革の実施により、高校受験の段階から、大学の現役進学が評価され私立希望が増えていたようだ。

前年度から、新型コロナ5類に移行によって、学校情報提供の場が以前に戻っていたことも、受験希望者の動向に与えた影響が大きかったと思われる。

定時制では、普通科840人、専門学科240人、総合学科900人、計1,980人の合格予定数に対し、普通科337人、工業科43人、商業科7人、総合学科715人、計1,102人が受験し、全体では、1.01倍となった。欠員の合格者49人と

あわせ 1,119 人が合格している。(前年 1,211 人)

全日制で欠員補充を実施した学校は 51 校(普通科 23 校 703 人, 専門学科 29 校 933 人, 総合学科 5 校 221 人)で募集 1,857 人に対し, 受験者は 320 人で 320 人合格した。前年の募集 48 校 1,251 人, 受験者 299 人, 合格者 291 人と比較すると, 欠員校の増加(3 校), 欠員数の増加 506 人, 受験生は 21 人増加した。

追検査・欠員補充の入学者を含めた公立高校への合格者は, 全日制 33,554 人, 定時制

1,119 人, 総計 34,673 人となっていた。

在籍(12 月 15 日時点の卒業予定者)62,548 人に対して, 公立・全日制への進学率は 53.6%(前年 54.7%)であり, 進学者(在籍の 98.7%)に対する比率は, 54.4%となった。

全日制の志願者は, 38,854 人(確定 38,587 人)で, 12 月の進路先調査の時点の全日制公立希望者 39,558 人に対する出願比率は 98.2%(前年 98.9%)となっており, 志望校調査時点の志望校の確定度合が高いことを示している。

参考 入試問題について

公立高校入試平均点の推移 予想点は入試直後の県教育局の予想平均点(目標平均点)

年度 種別	国語		数学		英語		社会		理科		5科	
	平均	予想	平均	予想								
平成 28 年度	57.9	58	51.1	50	57.4	50	63.7	55	39.2	50	269.4	69
平成 29 年度一般	53.3	55	44.4	48	52.0	48	60.6	55	48.5	50	258.8	261
平成 29 年度選択			43.2	60	71.9	65					277.5	263
平成 30 年度一般	52.8	55	44.0	48	55.9	48	55.9	55	51.7	50	260.3	256
平成 30 年度選択			43.7	60	58.9	65					263.0	285
平成 31 年度一般	58.3	55	42.3	48	47.7	48	60.3	55	44.5	50	253.1	256
平成 31 年度選択			53.5	60	64.3	65					280.9	285
令和 2 年度一般	57.2	55	67.9	50	52.2	48	55.4	55	51.1	50	283.8	256
令和 2 年度選択			55.2	60	64.3	65					283.2	285
令和 3 年度一般	68.7	55	62.2	55	51.4	50	62.6	55	56.2	50	301.1	258
令和 3 年度選択			56.0	60	61.6	65					305.1	285
令和 4 年度一般	62.9	55	48.0	55	52.6	50	52.9	55	52.5	50	268.9	265
令和 4 年度選択			42.6	60	58.3	65					269.2	285
令和 5 年度一般	57.1	60	55.8	60	45.8	60	64.1	60	58.2	60	281.0	265
令和 5 年度選択			50.5	60	56.7	60					286.6	285
令和 6 年度一般	58.1	60	51.7	60	53.4	60	65.7	60	51.6	60	280.5	300
令和 6 年度選択			50.2	60	54.8	60					280.4	300
令和 7 年度一般	63.4	60	52.3	60	43.6	60	65.6	60	64.8	60	289.7	300
令和 7 年度選択			44.8	60	57.0	60					295.6	300

7 年度入試の学力検査問題の出題数等

		国語	社会	数学 一般	数学 選択	理科	英語 一般	英語 選択	合計 一般	合計 選択
問題 数 別	大問数	5	6	4	5	5	5	4	25	24
	小問数	25	30	23	20	28	31	30	137	133
	小問・選択肢	12 (48.0%)	18 (60.0%)	1 (4.3%)	1 (5.0%)	14 (50.0%)	16 (51.6%)	16 (53.3%)	61 (44.5%)	61 (45.9%)
	小問・記述	13 (52.0%)	12 (40.0%)	22 (95.7%)	19 (95.0%)	14 (50.0%)	15 (48.4%)	14 (46.7%)	76 (55.5%)	72 (54.1%)
	小問・記:用語、単語	6	6	18	15	9	4	2	43	38
	小問・記:文章表現	7	6	3	3	1	11	12	31	32
	小問・記:作図	0	0	1	1	2	0	0	2	2
配 点 別	選択肢	43 (43.0%)	52 (52.0%)	4 (4.0%)	4 (4.0%)	49 (49.0%)	45 (45.0%)	44 (44.0%)	193 (38.6%)	192 (38.4%)
	記述	57 (57.0%)	48 (48.0%)	96 (96.0%)	96 (96.0%)	51 (51.0%)	55 (55.0%)	56 (56.0%)	307 (61.4%)	308 (61.6%)

7年度入試県の予想点は、国語 60点 数学 60点(60点) 英語 60点(60点) 社会 60点 理科 60点 5科 300点(300点)と発表されている。公立の入試予想平均点は、入試の目標値と考えられるので、5年度から、それまでの5割3分から6割に目標値に変更している。

記述問題の部分点は、各学校の裁量となっており、厳しく採点した学校とそうでない学校の混在になっている点に注意が必要となる。

各教科の小問数は、国語が 25⇒25問で作文を含め、記述式問題が 52.0⇒52.0%となっていた。数学は、一般23問で、作図・証明を含め23問が記述、選択問題は、20問で19問記述。英語・一般問題は31問で、英作文を含め記述問題が 51.6⇒51.6%、選択問題は、30問

中16問が記述問題となっている。社会は、30⇒30問で、記述式問題が40.0%、理科は28⇒28問で、記述式問題が50.0%となっており、全体では、一般問題が137問中76問、60.4⇒55.5%が記述式問題、選択問題では、133問中54.1%が記述形式だった。また、配点では、一般63.4⇒61.4%、選択61.6%が記述問題の割合であり、記述問題の増減によって、平均点の変化があるようだ。(6年度⇒7年度)

一般問題に対して、29年度から導入された選択問題では、問題数は変わらないが、問題の難度には差があり、数学の一般問題で7.7点、選択問題で15.2点、県の予想平均を下回っていた。

埼玉県公立高校の令和7年度入試では、一般は、平均点9.2点上昇、選択問題も、15.2点上昇していました。選択問題の数学・英語を受験した22校10,101人に対し、一般問題は28,155人が受験していました。

県入試に臨む生徒の平均偏差値は、52前後、合格者は53前後と予想されます。つまり目標点300点は、偏差値52相当の点数ということになります。およそ10点が1偏差値ですので、7年度入試の平均点で見ますと、偏差値50の生徒の得点は270点前後ということになります。ただし、数・英は選択問題実施校に上位の生徒が流れますので、29年度以降は、数・英の一般問題実施者は偏差値50前後にまで下がっていると考えられます。

2. 埼玉県及び近隣の都県の公私入試日程

資料② 埼玉県・近隣都県の入試日程

埼玉県教育局は、前年の5月23日に令和8年度の公立高校入試の日程を発表した。

昨年からは、コロナ・インフルエンザ等の感染者に対する追検査日程を合格発表前に実施し、合格発表を1本化している。また、インターネット出願を全校に拡大し、合格発表では、掲示を取りやめ、ネットによる合否照会システムを全面的に採用していた。

出願 1月27日～2月10日

出願書類の提出 1月13日・16日・17日

志願先変更 2月18日・19日

学力検査 2月26日

実技・面接 2月27日

追検査 3月3日

合格発表 3月6日

尚、出願は、ネット出願とし、出願書類の提出は2月13日は郵送としている。

現時点(5月10日現在)で判明している埼玉及び近隣都県の公私の入試日程をまとめた。

東京・千葉に続き、埼玉・群馬でも7年度入試からインターネットによる出願が全校に拡大し、8年度では、群馬で採用される。

3. 文部科学大臣 中央教育審議会へ諮問

資料③ 初等中等教育における教育課程の基準等の在り方

令和6年12月25日文部科学大臣は、中央教育審議会特別部会に対して、「」について諮問した、事実上の次期学習指導要領策定に向けての諮問となる。

中央教育審議会は、この諮問を受けて、令和8年度末までに報告書をまとめる予定となる。

次期学習指導要領は、令和12年度から小学校で施行される予定だ。

次期学習指導要領の主な特徴

・令和12年の社会を視野に入れた教育

令和12年の社会の課題や変化に対応できる人材育成を目指す。

・学習者の主体性・対話性を重視した学び

学習者自身の考えを深め、他人と協力して学びを深める授業が重視される。

・社会との連携を重視した教育課程

学校と社会の連携を深め、地域社会の課題解決に貢献できる人材育成を目指す。

・個別最適な学びと協働的な学びの両立:

個々の児童生徒の個性や発達段階に合わせた指導と、生徒同士が協力して学びを深める活動を両立させる。

・「カリキュラム」への転換

教育課程の実施の仕方を変え、本人の学習経験や学びの履歴を重視するカリキュラムを目指す。

・「標準授業時数」から「標準学習時数」への転換:

従来の標準授業時数から、学校内外の学習を合わせた標準学習時数へと転換する可能性を検討。

次期指導要領では、令和12年以降の社会を見据え、未来社会を担う子どもたちに必要な資質・能力を育てるための学校教育の実現を目指しており、現行の学習指導要領から「教育課程」から「カリキュラム」への転換を視野に入れている。具体的には、個別最適な学びと協働的な学びを両立させ、社会に開かれた教育課程の実現をめざす考えのようだ。

4. 埼玉県及び東京地域の主な進学フェアの日程

令和2年2月末から始まった新型コロナウイルスの蔓延によって、学校が臨時休校になり、学校行事、部活の大会等すべて中止となった。また、2年度に予定されていた中学・高等学校の進学フェアが次々と中止・延期となり、受験生の志望校の選択のための情報収集の手段が閉ざされてしまったことになる。

5年度では、新型コロナが5類に移行し、予約制や定員制などが散見されるが、フェア実施が完全に以前の状態に戻ってきていた。

7年度では、埼玉県私立中学高等学校協会主管の私学フェアが例年7月～8月に実施されるほかに、東京都私立中学高等学校協会主催の私学展、読売新聞さいたま支局主催の彩の国高校進学フェアなど、実施される。ただし、多くのフェアが事前に申し込み制になる事に注意が必要だ。

しかし、各都県の公私の入試日程は決まっているが、今年も従来通りの志望校選択は難しそうだ。

受験生は、限られた学校との出会いの場にはなるが、ホームページなどを閲覧し、高校の

内容を把握することが求められる。

◆資料3-4 主なフェア・合同相談会の日程(令和7年5月10日判明分) 予約の有無については要確認

名称	主催	日程	会場	問い合わせ先
2025 彩の国高校進学フェア (私学フェア)	読売新聞社 さいたま支局	7/12(土)・13(日)	さいたまスーパーアリーナ	03-5226-9915 読売エージェンシー
埼玉県私学フェア (大宮会場)	毎日新聞社 さいたま支局	8/23(土)・24(日)	大宮ソニックシティ	048-863-2110 埼玉県私立中学 高等学校協会
埼玉県私学フェア (川越会場)	埼玉県私立中学 高等学校協会	8/16(土)・17(日)	ウエスタ川越	
埼玉県私学フェア (熊谷会場)		7/26(土)・27(日)	キングアンバサダーホテル 熊谷	
2025 ふれあい 私立中高進学相談会	ふれあいの会	6/1(日)	浦和コルソ7F	03-5226-9915 読売エージェンシー 営業部 ふれあい係
		7/6(日)	川口キュポラ	
2025 年度夢ネット 埼玉東部進学フェア	NPO ゆめネット	5/31(土)・6/1(日)	草加アコスホール	NPO ゆめネット 048-967-5759
2025 入試ファースト	NPO 埼玉教育 ネット	6/29(日)	浦和コルソホール	048-738-0680 NPO 埼玉教育ネット
		6/22(日)	川口ホールフレンディア	
		10/11(土)	越谷サンシティホール	
		10/19(日)	春日部・ふれあいキューブ	

東京

名称	主催	日程	会場	問い合わせ先
2025 私立学校展 進学相談会	東京都私立中高 協会	8/23(土)・24(日)	東京国際フォーラム	03-3263-0543 東京都私立高協会
2025 中・高進学相談会 IN 上野松坂屋	新しい教育を担 う私学の会	5/26(土)	上野松坂屋・本館	03-3828-4366 駒込学園
第44回 受験なんでも相談会	声の教育社	6/28(土)中学 6/29(日)高校	新宿住友ビル1F	03-5261-5061 声の教育社
第7回 フェスタ東京 私学から世界へ	実行委員会	6/15(日)	淑徳巣鴨中学・高等学校	03-3918-6451 淑徳巣鴨

5. その他の話題

政府 公立の併願制度 検討へ

石破首相は、4月22日、全国の公立高校の定員割れや、今後、就学支援金増額によって、公立離れが進む可能性などを勘案し、1つの高校しか受験できない現在の公立高校の受験の「単願制」を見直しに向けた検討を関係省庁に指示した。

受験生が複数の志望校を優先順位をつけて志

望し、共通テストなどの結果を基に、その中の1校に合格する仕組みを想定しているようだ。複数の志望校に対して、共通テストや内申点等を基に合格基準を超えた学校の中から志望順位が高い高校を割り当てる受験システム「デジタル併願制」となる。

いち早く私立授業料無償化を打ち出した大阪府では、今春の入試で 142 校の公立高校の内 79 校が定員割れとなった。私学志向から公立回帰を目指す狙いがありそうだ。

一方、私学の側では、併願枠を定員の半数とする東京都をはじめ、併願制度崩壊に繋がりがねない今回の方針転換に戸惑う声も聞こえる。

川口市立附属中学校 全県からの受験が可能に

5月8日川口市教育委員会は、川口市立附属中学校の募集人員を、これまでの80人から110人に増やし、併せて、川口市内に限っていた出願資格を全県に広げることを決定した。

中高一貫教育校としての教育課程の充実や、多様な人間関係の構築による豊かな学校生活の実現を目指すとしている。

閑話休題

連休が明け、いよいよ令和8年度入試戦線がスタートしました。

埼玉県の令和8年度の高校入試についてのリーフレットが中学2年生に配布されました。

令和5年度より段階的に実施されている部活動の段階的な地域連携・地域移行が令和7年に一端の完了期を迎えます。これにより、学校外の生徒活動が調査書内容から割愛されてきます。

これが、中学生に与える影響は少なくない筈です。

公私立の7年度の在籍生から就学支援金の世帯年収910万円の壁が廃止され、全員が対象となります。さらに、8年度からは、私学在籍者への国の授業料支援が45万7千円に増額される見込みです。

これによって、益々高校選択の自由度が高まってきます。ただ、私学志向の高まりを懸念した国が公立のデジタル併願制度を打ち出す気配です。

志望校選択の自由化ということでしょうか、公私立とも、各学校の特色化を進め、受験生にアピールする必要性が高まって来ることは間違いないと思います。

各種のフェアの今年度実施が見えてきました。受験生や保護者の皆さんの、高校との出会いの最高の機会、自ら将来の志望を考えて、能動的にこんなチャンスを捉えていただくことを願ってやみません。

令和7年度埼玉県公立高等学校入学者選抜実施状況

1 令和7年3月埼玉県内国・公・私立中学校等卒業予定者数

61,921人〔昨年同期 62,144人〕

2 令和7年度埼玉県公立高等学校生徒募集人員

【第1表】

		7年度		6年度	
全日制 の課程	普通科	26,300	(184)	26,420	(183)
	専門学科	7,420	(41)	7,420	(42)
	総合学科	1,760	(15)	1,760	(15)
	計	35,480	(240)	35,600	(240)
定時制 の課程	普通科	880	(40)	920	(40)
	専門学科	240	—	280	—
	総合学科	940	(22)	940	(22)
	計	2,060	(62)	2,140	(62)
計	普通科	27,180	(224)	27,340	(223)
	専門学科	7,660	(41)	7,700	(42)
	総合学科	2,700	(37)	2,700	(37)
	計	37,540	(302)	37,740	(302)

- 募集人員欄の()内の数字は、転編入学者等の募集人員であり、募集人員の内数である。
- 全日制の課程の普通科には、伊奈学園中学校から伊奈学園総合高等学校に、さいたま市立浦和中学校からさいたま市立浦和高等学校に、及び川口市立高等学校附属中学校から川口市立高等学校に進学予定の239人を含む。
- 定時制の課程の総合学科には、吹上秋桜高等学校の秋季募集人員24人を含む。

3 全日制の課程

(1) 一般募集等における応募状況【第2表】

		募集人員		入学許可 予定者数	志願 確定者数 (R7.2.20)	実 受検者数 (B)	入学許可 候補者数 (C)	競争率 (B/C)
普通科	普通科	25,861	(184)	25,677	29,779	29,671	25,062	1.18
	コース	200	(0)	200	204	203	178	1.14
	計	26,061	(184)	25,877	29,983	29,874	25,240	1.18
専門学科	農業	800	(4)	796	641	639	635	1.01
	工業	2,400	(18)	2,382	2,112	2,105	2,067	1.02
	商業	2,300	(15)	2,285	2,151	2,148	2,024	1.06
	家庭	320	(1)	319	304	303	277	1.09
	看護	80	(0)	80	95	95	80	1.19
	外国語	320	(1)	319	384	383	318	1.20
	美術	120	(0)	120	132	132	103	1.28
	音楽	120	(0)	120	66	65	65	1.00
	書道	40	(0)	40	40	40	40	1.00
	体育	160	(0)	160	186	186	164	1.13
	理数	280	(0)	280	482	471	275	1.71
	福祉	80	(0)	80	21	21	21	1.00
	人文	40	(0)	40	29	29	40	0.73
	国際文化	40	(0)	40	38	38	40	0.95
	映像芸術	40	(0)	40	38	38	40	0.95
	舞台芸術	40	(0)	40	33	33	33	1.00
	生物・環境系	240	(2)	238	265	265	238	1.11
計	7,420	(41)	7,379	7,017	6,991	6,460	1.08	
総合学科	1,760	(15)	1,745	1,587	1,584	1,524	1.04	
全体	35,241	(240)	35,001	38,587	38,449	33,224	1.16	

- 募集人員欄の()内の数字は、転編入学者等の募集人員であり、募集人員の内数である。
- 伊奈学園中学校から伊奈学園総合高等学校への進学者数、さいたま市立浦和中学校からさいたま市立浦和高等学校への進学者数及び川口市立高等学校附属中学校から川口市立高等学校への進学者数を含まない。以下同じ。
- 追検査における実受検者数及び入学許可候補者数を含む。

(2) 不登校の生徒などを対象とした特別な選抜の実施状況【第3表】

		自己申告書 提出者数	受検者数	入学許可 候補者数	受検者数に対する入学 許可候補者数の割合
全日制の 課程	7年度	355	351	254	72.4%
	6年度	367	354	272	76.8%
定時制の 課程	7年度	146	141	129	91.5%
	6年度	176	170	113	66.5%
計	7年度	501	492	383	77.8%
	6年度	543	524	385	73.5%

(3) 欠員補充を実施した学校数等【第4表】

	普通科		専門学科		総合学科		計	
	7年度	6年度	7年度	6年度	7年度	6年度	7年度	6年度
学校数	23	24	29	24	5	5	51	48
欠員数	703	494	933	625	221	132	1,857	1,251

○ 学校数については、1校が複数の学科で欠員補充を実施している場合がある。

(4) 欠員補充における入学許可候補者数及び欠員数【第5表】

	学校数	募集人員	受検者数	入学許可 候補者数	欠員数
7年度	51	1,857	320	320	1,540
6年度	48	1,251	299	291	964

○ 一部の学校で、募集人員を超える人数を入学許可候補者としているため、欠員数は募集人員から入学許可候補者数を引いた数よりも多くなっている。

(5) 募集人員の充足しない学校数(欠員補充後)
47校

埼玉県・近隣都県の令和8年度入試日程・全日制

埼玉県

私立中学 入試解禁 令和8年1月10日

私立高校 入試解禁 令和8年1月22日

公立高校

令和8年

1月27日(火)～2月10日(火) 出願入力期間(インターネットを活用した出願を実施)

2月13日(金)、16日(月)、17日(火) 出願書類の提出 13日は郵送による提出

2月18日(水)、19日(木) 志願先変更期間

2月26日(木) 学力検査

2月27日(金) 実技検査(芸術系学科等)、面接(一部の学校)

3月3日(火) 追検査

3月6日(金) 入学許可候補者発表

※ 追検査はインフルエンザ罹患などやむを得ない事情により学力検査を受検できなかった志願者を対象とする。

※ 欠員補充の日程及び内容については、実施する高等学校において定める

千葉県

私立中学 入試解禁 推薦 令和7年12月1日 一般 令和8年1月20日

私立高校 入試解禁 前期 令和8年1月17日 後期 令和8年2月15日

公立高校

一般入学者選抜

(1) 志願者情報の登録・検査料の納付 令和8年1月13日(火)～2月2日(月)

出願書類(調査書等)提出 2月3日(火)～2月5日(木)

(2) 志願又は希望の変更受付期間 2月10日(火)・2月12日(木)

(3) 学力検査等の期日 2月17日(火) 及び 2月18日(水)

(4) 追検査受付期間 2月20日(金) 及び 2月24日(火)

(5) 追検査の期日 2月26日(木)

(5) 入学許可候補者発表 3月3日(火)

栃木県

私立中学 入試 令和7年11月20日ごろから 解禁は特になし

私立高校 入試 令和8年1月4日

公立高校

1 全日制課程 (1)

特色選抜関係

① 願書等提出期間 令和8(2026)年1月29日(木)～30日(金)

② 面接等 令和8(2026)年2月5日(木)、6日(金) ただし、一日で行う学校は2月5日(木)に実施する。

③ 合格者内定 令和8(2026)年2月12日(木)

一般選抜関係

① 願書等提出期間 令和8(2026)年2月18日(水)～19日(木)

② 出願変更期間 令和8(2026)年2月24日(火)～25日(水)

③ 受検票交付期間 令和8(2026)年2月26日(木)～27日(金)

④ 学力検査 令和8(2026)年3月5日(木)

⑤ 合格者発表 令和8(2026)年3月11日(水)

群馬県

私立中学 入試解禁 特になし

私立高校 入試解禁 非公表

令和8年度 県立学校入学者選抜日程について

県立高等学校入学者選抜日程一覧

選抜	事項	期日
	志願者基本情報登録期間 (出願試行期間を含む)	令和7年11月4日(火曜日)～
全日制課程選抜 フレックススクール選抜 定時制課程選抜 連携型選抜	出願期間(志願情報登録)	令和8年1月5日(月曜日)～1月30日(金曜日)
	第1回志願先変更期間	令和8年2月3日(火曜日)、2月4日(水曜日)
	第2回志願先変更期間	令和8年2月6日(金曜日)～2月10日(火曜日)
	本検査学力検査等実施	令和8年2月19日(木曜日)、2月20日(金曜日) (定時制課程選抜は、2月19日(木曜日)のみに実施する。)
	追検査学力検査等実施	令和8年2月26日(木曜日)
	合格者発表	令和8年3月4日(水曜日)
全日制課程再募集 フレックススクール再募集 定時制課程再募集	出願期間(志願情報登録)	令和8年3月4日(水曜日)～3月9日(月曜日)
	検査(面接等)実施	令和8年3月17日(火曜日)
	合格者発表	令和8年3月19日(木曜日)
定時制課程追加募集	出願期間(志願情報登録)	令和8年3月19日(木曜日)～3月24日(火曜日)
	検査(面接等)実施	令和8年3月26日(木曜日)
	合格者発表	令和8年3月30日(月曜日)
通信制課程選抜	出願期間	令和8年3月5日(木曜日)～3月26日(木曜日)

東京都

私立中学 入試解禁 令和8年2月1日

私立高校 入試解禁 推薦 令和8年1月22日 一般 令和8年2月10日

都立高校 前年5月23日に発表

参考 令和7年度入試

1 推薦に基づく選抜	入学願書受付日	令和7年1月9日(木曜日)～16日(木曜日)
	実施日	令和7年1月26日(日曜日)・27日(月曜日)
	合格発表日	令和7年1月31日(金曜日)
2 学力検査に基づく選抜	入学願書受付日	令和7年1月30日(木曜日)～2月5日(水曜日)
	実施日	令和7年2月21日(金曜日)
	合格発表日	令和7年3月3日(月曜日)

初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について (令和6年12月25日中央教育審議会諮問)【概要】

子供たちを取り巻くこれからの社会の状況

- 不確実性の高まり（少子化・高齢化、グローバル情勢の混迷、生成AI等デジタル技術の発展等）
→ 子供たちは、激しい変化が止まることがない時代を生きる
- 労働市場の流動性の高まり、マルチステージの人生モデルへの転換
→ 自らの人生を舵取りする力を身に付けることの重要性
- 内なるグローバル化やデジタル化の負の側面等による社会の分断の芽への指摘
→ 多様な他者と、当事者意識を持った対話により問題を発見・解決できる「持続可能な社会の創り手」を育てる必要性
- テクノロジーは変化に伴う困難だけでなく多様な個人の思いを具現化するチャンスも生み出す
→ 生産年齢人口が急減する中、あらゆる資源を総動員し、全ての子供が豊かな可能性を開花できるようにすること不可欠

顕在化している課題

- ① 主体的に学びに向かうことができにくい子供の存在
学が意義を十分に感じだせず、主体的に学びに向かうことができにくい子供の増加
- ・ 不登校児童生徒、特別支援教育の対象となる児童生徒や外国人児童生徒、特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の充実とともに、多様性を包摂し、可能性を開花させる教育の実現が喫緊の課題
- ・ これらに向き合うことは、「正義主義」や「同調圧力」への偏りから脱却するとともに、民主的かつ公正な社会の基盤として学校を機能させ、分断や格差の拡大を防ぎ、共生社会を実現する観点からも重要

現在の学校現場の状況

- 現行学習指導要領は、「社会に開かれた教育課程」を理念に掲げ、「何を学ぶか」だけでなく、「何ができるようにするか」を明確化し、「どのように学ぶか」の重要性を強調し、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を提示
- コロナによる制約に苦しみながらも、GIGAスクール構想による1人1台端末環境も活用し、精力的な授業改善が行われてきた
- 全国学力・学習状況調査やOECDのPISA調査において地域間格差・学力格差の改善も見られている
→ 我が国の初等中等教育は、質の高い教師の努力と熱意に支えられ、大きな成果を上げ続けている

② 学習指導要領の理念や趣旨の浸透は道半ば

- ・ 習得した知識を現実の事象と関連付けて理解すること、概念としての知識の習得や深い意味理解をすること、自分の考えを持ち、根拠を持って明確に説明すること、自律的に学ぶ自信がある生徒が少なくないこと、等に依然として課題
- ・ 子供の社会参画の意識、将来の夢を持つ子供の割合等についても、改善傾向も見られるものの国際的に見て低い状況

③ デジタル学習基盤の効果的な活用

- ・ デジタル学習基盤(※)は、一人一人のよさを伸ばし、困難の克服を助ける大きな可能性を秘めているが、効果的な活用は緒に就いたばかり
- ・ 我が国のデジタル競争力は国際比較でも低位であり、デジタル人材育成強化は喫緊の課題
- ・ 「デジタルの力でリアルな学びを支える」との基本的な考えに立ち、バランス感覚を持って、積極的に取り組む必要

(※) GIGAスクール構想による1人1台端末やクラウド環境等のデジタル学習基盤

○ 子供たちが社会で活躍する2040年代を展望するとき、初等中等教育が果たすべき役割はこれまで以上に大きい

→ これまでのよい部分を継承し、課題を乗り越え、高等教育との接続改善や国際的な潮流にも配慮しながら、新たな時代にふさわしい在り方を構築する必要

○ 教師の努力と熱意に対して過度な依存はできず、教育課程の実施に伴う負担への指摘に真摯に向き合う必要性

→ 令和6年8月の中央教育審議会答申に基づく教員の勤務環境整備と整合させつつ、「令和の日本型学校教育」を持続可能な形で継承・発展

※別途諮問している「多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成を加速するための方策について」に係る検討と連携

主な審議事項

1 質の高い、深い学びを実現し、分かりやすく使いやすい学習指導要領の在り方

- 生成AIが発展する状況の下、知識の概念としての習得や深い意味理解を促し、学ぶ意味や社会とのつながりが重要となる中、そうした授業改善に直結する学習指導要領とするための方策（特に、各教科等の中核的な概念等を中心に、目標・内容を一層構造化）
- 目標・内容の記載に表形式等を活用すること、学校種間・教科等間の関係を俯瞰しやすくすることのほか、デジタル技術を活用した工夫の在り方
- 重要な理念の関係性の整理（「主体的・対話的で深い学び」、「個別最適な学びと協動的な学びの一体的な充実」、「学習の基盤となる資質・能力」等）
- デジタル学習基盤の活用を前提とした、資質・能力をよりよく育成するための各教科等の示し方
- 学習改善・授業改善に効果的な評価の観点や頻度、形式的・総合的評価の在り方（特に、「主体的に学習に取り組む態度」をはじめ観点別学習状況の把握をより豊かな評価につなげるための改善）

3 各教科等やその目標・内容の在り方

- 小中高等学校を通じた情報活用能力の技術的向上を図る方策（生成AI等に関わる教育内容の充実、情報モラルやメディアリテラシーの育成強化を含む）
- 質の高い探究的な学びを実現するための「総合的な学習の時間」、「総合的な探究の時間」の改善の在り方（情報活用能力の育成との一体的な充実等を含む）
- 高等教育段階でデジタル・理数分野への学部転換等の取組が進む中で、初等中等教育段階における文理横断・文理融合の観点からの改善の在り方
- 生成AIの活用を含めた今後の外国語教育の在り方や、手軽に質の高い翻訳も可能となる中で外国語を学ぶ意義についての考え方
- 教育基本法、学校教育法等に加え、子ども基本法の趣旨も踏まえた主体的に社会参画するための教育の改善の在り方
- 多くの教科・科目の構成の改善が行われた高等学校教育について、その一層の定着を図るとともに、職業教育を含めた今後の改善の在り方
- 特別支援学級や通級指導に係る特別的教育課程、自立活動の充実等を含む、障害のある子供の教育的ニーズに応じた特別支援教育の在り方
- 幼思教育と小学校教育との円滑な接続の改善の在り方、設置者や施設類型を問わず、幼思教育の質の向上を図る共通の方策

2 多様な子供たちを包摂する柔軟な教育課程の在り方

- 興味・関心や能力・特性に応じて子供が学びを自己調整し、教材や方法を選択できる学習環境デザイン的重要性、デジタル学習基盤を前提とした新たな時代にふさわしい学びや教師の指導性の在り方
- 教師に「余白」を生み、教育の質の向上に資する可能性も含めた、子供たちの可能性が輝く柔軟な教育課程編成の促進の在り方（各種特別校制度等を活用しやすくすること、標準授業時数に係る柔軟性、学習内容の学年区分に係る弾力性、単位授業時間や年間の最低授業週数の示し方）
- 高等学校の生徒の多様性に応える柔軟な教育課程の実現のための、全日制・定時制・通信制を含めた諸制度の改善の在り方
- 不登校児童生徒や特定分野に特異な才能のある児童生徒など、各学校が編成する一つの教育課程では対応が難しい子供を包摂するシナリオの構築に向けた教育課程上の特例等の在り方

4 教育課程の実施に伴う負担への指摘に真摯に向き合うことを含む、学習指導要領の趣旨の着実な実現のための方策

- 教育課程の実施に伴う過度な負担や負担感が生じにくい在り方（学習指導要領や解説、教科書、入学者選抜、教師用指導書を含む）
- 現在以上に増加させないことを前提とした年間の標準総授業時数の在り方、教育課程の実施に伴う負担に留意した上での、現代的な諸課題を踏まえた様々な教育の充実の在り方
- 新たな学びにふさわしい教科書の内容や分量、デジタル教科書の在り方
- 情報技術など変化の激しい分野において、教師の負担軽減を図りつつ量の教育内容を扱うことを可能とするための方策
- 各学校での柔軟な教育課程編成を促進し、多様な取組の展開に資する、教育委員会への支援強化、指導主事等の資質・能力の向上の在り方
- コミュニティ・スクールを含む地域や家庭との連携、協働を促進しつつ、過度な負担を生じさせずに加キユラム・エネジツムを実質化する方策
- 学習指導要領の趣旨・内容について、保護者をはじめ社会全体と共有するとともに、学校種を超えて一人一人の教師に浸透を促す方法の在り方